

研究発表もうしこみフォーム

氏名：査斯査干（チャスチャガン）

氏名のローマ字表記：CHASICHAGAN

所属：中国河北民族師範学院

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：口頭伝承から帰還集団のアイデンティティのありかたを問う
—トルグド・モンゴルの親王ツェヴッドルジの物語を事例に

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表では、新疆ウイグル自治区ホボクサイル・モンゴル自治県に居住するオイラド・モンゴルの一系統であるトルグドという民族集団を対象とする。トルグドは、オイラドの内争を避けて1630年代に中央アジアのタルバガタイ山脈からロシアのヴォルガ河周辺へ移住したが、1771年に現在の新疆に当る領域に帰還した集団である。今日もその子孫たちは、彼らにとっては真実とみなされる過去の出来事を語り伝える口頭伝承を多く記憶している。

ここでは、ホボクサイル・トルグドの領主であるツェヴッドルジ親王という実在する人物に関する物語群を事例としてあげる。そして、トルグドが清朝から親王の印を招来してホボクサイルで遊牧する権利を得る過程が伝えられる物語のストーリーと、外来の政治的権威への対抗心や自集団の政治的権威に対する揶揄というメッセージを、親王の物語群から読み取る。分析の結果、政治的権威から在住の許可を求める苦労話というストーリーと、そこに付加された政治的権威への風刺を内包するメッセージは必ずしも一致しない。特に、政治的権威と対峙してくれた自集団のリーダーに対する、敬意と風刺は相反することがわかる。このことは、自集団の政治的権威の不在を揶揄することによって、盟旗制度すなわち清朝の統治を導入したツェヴッドルジの男系の断絶という事実を背景にして、清朝が与えた政治的体制を抜きにして、集団アイデンティティを獲得していることを示している。